

富山県感染症発生動向速報

(2026 年第 31 週分・7 月 27 日～8 月 2 日)

■今週の主な動向

○レジオネラ症が今週 2 例（2026 年累積 23 例）報告されました。

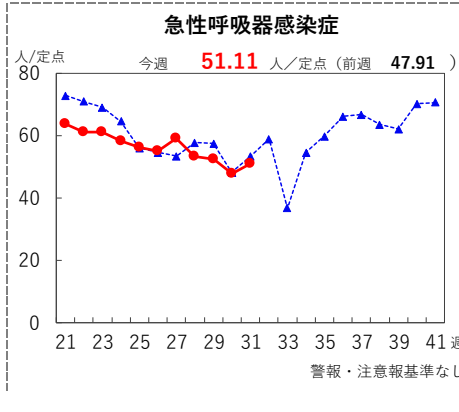
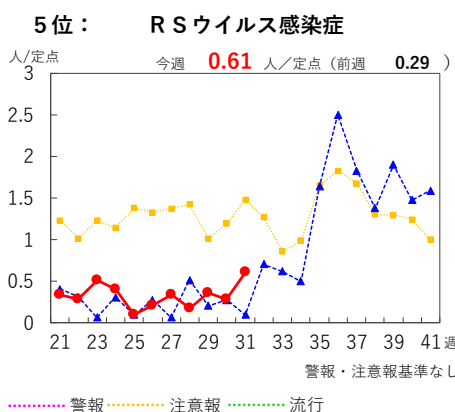
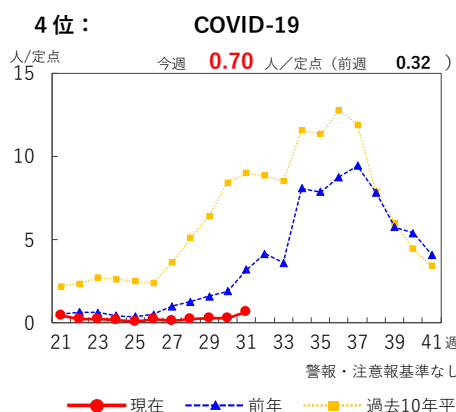
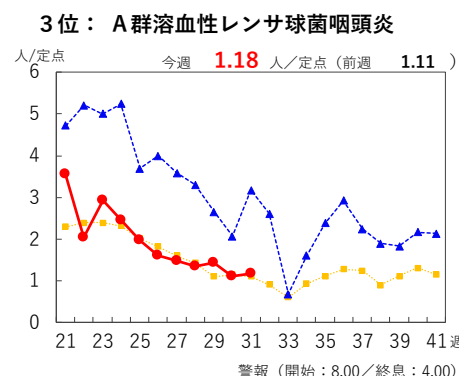
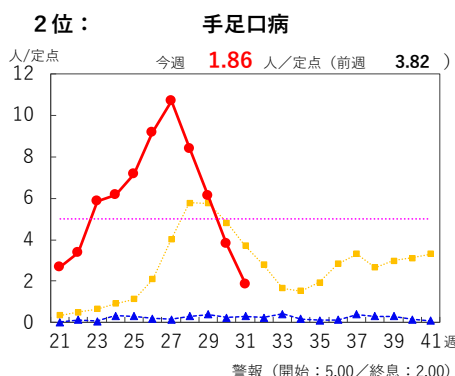
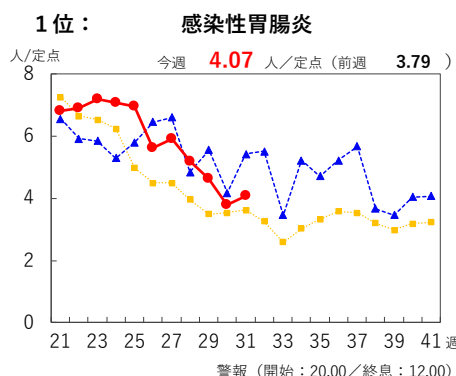
レジオネラ症は、夏季に報告数が増える傾向があり、50 歳以上の男性が患者の多くを占めます。感染すると肺炎等を引き起こし、重症化することがあります。原因菌は循環式浴槽や加湿器等で繁殖しやすいため、予防にはこれらの機器の清掃や換水が重要です。（[第 22 週インフォメーション](#)参照）

○手足口病は先週からさらに減少し、警報終息基準を下回りました。

手足口病の報告数は今週 1.86 人/定点となり、警報レベルの終息基準である 2.0 人/定点を下回りました。引き続き、手洗いなどの基本的な感染対策を心がけましょう。（[第 29 週インフォメーション](#)参照）

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位 5 疾患 + 急性呼吸器感染症（第 31 週・7/27～8/2）

厚生センター（保健所）管内別、直近の推移：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#a-6>

■全数報告の感染症

二類感染症 結核 5 件（①②共に 20 歳代、男性 ③50 歳代、男性 ④80 歳代、男性 ⑤90 歳以上、女性）

四類感染症 レジオネラ症 2 件（①70 歳代、男性、肺炎型 ②90 歳以上、男性、肺炎型）

五類感染症 梅毒 1 件（第 29 週診断分：40 歳代、男性、早期顕症梅毒Ⅱ期）





県内 3 例目のイヌの感染を確認 重症熱性血小板減少症候群

《 インフォメーション 》

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome; 以下 SFTS）は、SFTS ウイルスが原因のマダニ媒介性人獣共通感染症です。ウイルスはマダニと野生動物の間で生活環が成立しており、マダニからの咬傷でヒトや伴侶動物に感染します。SFTS を発症した伴侶動物からヒトに感染する事例もあります（図 1）。2024 年には国内初のヒト－ヒト感染事例として、SFTS ウイルスに感染した患者の体液等に接触する機会のあった医療従事者の感染が報告されました（[IASR 2024;45\(4\):62-64](#)）。この報告では重症 SFTS 患者に対しては目の防護（フェイスシールドやアイガードなど）も行うなど、感染予防対策を徹底するように医療従事者への注意喚起がされています。ヒトに感染すると、6～14 日の潜伏期間を経て発熱や消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）が認められ、時に、頭痛、筋肉痛、神経症状、出血症状などを伴います。患者の約 10～30%が死に至る致死率の高い感染症です。

全国では 2021 年以降、毎年 100 人以上の SFTS 患者の報告があり、今年はずでに 113 人（第 30 週時点）となっています（図 2）。これまでは西日本を中心に報告されていましたが、2025 年以降、東日本でも報告されるようになりました（図 3）。今後、ますます全国に拡大する可能性があるため、患者報告のない地域においても注意が必要です。

県内のヒトや伴侶動物への SFTS ウイルス感染事例については、2022 年 5 月にイヌ 2 頭で、続けて同年 11 月にヒトで初めて確認され、2025 年 6 月にはヒトの 2 例目、同年 8 月にはネコ 1 頭で確認されました。感染したイヌの体液、とりわけ尿検体からは高い遺伝子量が検出され、また、感染性ウイルスは発症後 3 週間まで排出されていました（[IASR 2022; 43\(9\):218-219](#)）。このため、飼育者や獣医療従事者は症状消失後も尿を含む体液の取り扱いには注意が必要です。さらに、今年 7 月には県内で 3 例目となるイヌの感染が確認されました（[2026 年 7 月 27 日報道発表](#)）。なお、本事例では、飼い主や動物病院従事者への感染は現時点では認められていません。直近でも感染事例が発生していることから、SFTS の感染防止対策を継続して行うことが重要です。

SFTS の予防のため、森林や草むらでは、マダニに咬まれないように長袖・長ズボン・手袋・長靴等を着用して肌の露出を少なくすることが重要です。服の上や肌の露出部分にダニ忌避剤（ディート、イカリジン）等を適切に使用しましょう。また、動物を飼育している場合、過剰なふれあいを控え、動物に触ったら必ず手を洗いましょう。SFTS を発症した動物の血液、唾液、便、尿等の体液や排泄物から感染性のあるウイルスが検出されています。体調不良の動物の体液等と接触しないように注意することが極めて重要です。

図 1. SFTS ウイルスの感染ルート

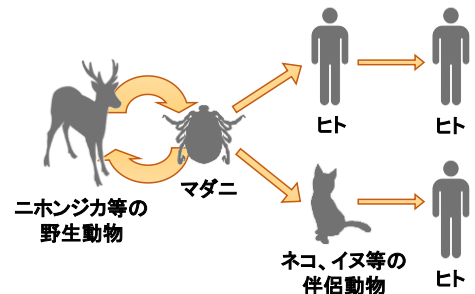


図 2. SFTS 患者報告数（全国）

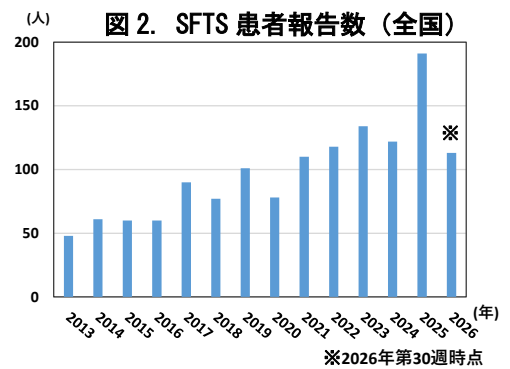
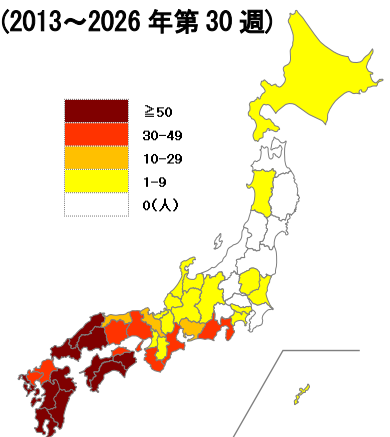


図 3. 都道府県別 SFTS 患者累積報告数（2013～2026 年第 30 週）



○感染症発生動向調査報告状況（2026年第31週 2026年7月27日～2026年8月2日）

分類	疾患	今週報告分（第31週）						累積報告数（2026年第1週（2025年12月29日）～）					
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
二類感染症	結核	1			1	3	5	5	3	14	8	33	63
	（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く	1				2	3	5	1	5	6	21	38
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症							2		6		3	11
四類感染症	E型肝炎									1		1	2
	デング熱											1	1
	マラリア											2	2
	レジオネラ症			1	1		2	1	2	8	2	10	23
五類感染症	急性脳炎							1				1	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									3	1	6	10
	後天性免疫不全症候群（H I V感染症を含む）											1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症									2		4	6
	侵襲性肺炎球菌感染症							2		7	2	5	16
	水痘（入院例）							1	1	2		3	7
	多剤耐性緑膿菌感染症											1	1
	梅毒							4	2	9		14	29
	破傷風											1	1
	百日咳							1				7	8
麻しん									4		4	8	
急性呼吸器感染症（ARI）定点 （47定点）	急性呼吸器感染症（※1）	224 32.00	178 35.60	846 65.08	195 27.86	959 63.93	2,402 51.11	9,241	8,435	31,961	8,865	40,458	98,960
	インフルエンザ	2 0.29			2 0.29	1 0.07	5 0.11	1,445	1,211	3,348	1,433	4,694	12,131
	COVID-19	5 0.71		19 1.46	7 1.00	2 0.13	33 0.70	283	147	329	166	529	1,454
小児科定点 （28定点）	RSウイルス感染症			4 0.50	2 0.50	11 1.22	17 0.61	29	11	158	30	124	352
	咽頭結膜熱	1 0.25		5 0.63			6 0.21	33	23	241	1	77	375
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1 0.25	1 0.33	12 1.50	2 0.50	17 1.89	33 1.18	151	199	1,401	227	1,315	3,293
	感染性胃腸炎	17 4.25	10 3.33	12 1.50	3 0.75	72 8.00	114 4.07	745	637	1,132	294	3,762	6,570
	水痘					2 0.22	2 0.07	3	17	44	9	104	177
	手足口病	2 0.50	5 1.67	19 2.38	1 0.25	25 2.78	52 1.86	34	159	689	101	998	1,981
	伝染性紅斑							8	3	26	11	13	61
	突発性発しん		2 0.67	4 0.50	1 0.25	3 0.33	10 0.36	6	22	98	25	108	259
	ヘルパンギーナ			2 0.25		4 0.44	6 0.21	17	45	64	14	147	287
	流行性耳下腺炎			1 0.13			1 0.04	3		5	4	8	20
眼科定点 （7定点）	流行性角結膜炎			1 0.50	1 1.00		2 0.29	9	2	14	2		27
基幹定点 （5定点）	細菌性髄膜炎											2	2
	無菌性髄膜炎							2					2
	マイコプラズマ肺炎							9		3	4	6	22
	クラミジア肺炎										2		2
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）									1	1		2
入院サーベイランス （5定点）	インフルエンザによる入院患者（※2）							55	41	49	40	102	287
	COVID-19による入院患者				1		1	19	17	7	12	58	113

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/>）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2025年第36週（9/1～）の集計です。